

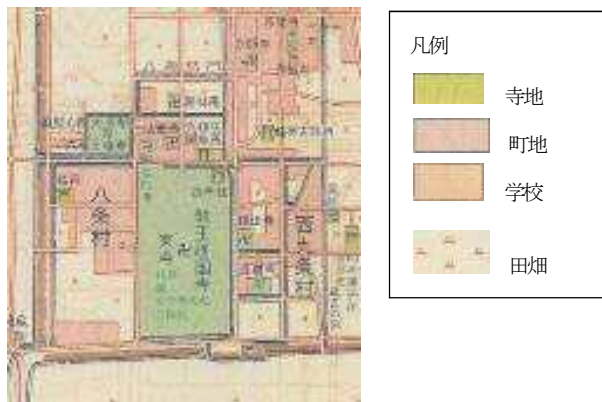


図4-13 天明・文化期の東寺地区周辺
 (『京都の歴史6 伝統の定着』)

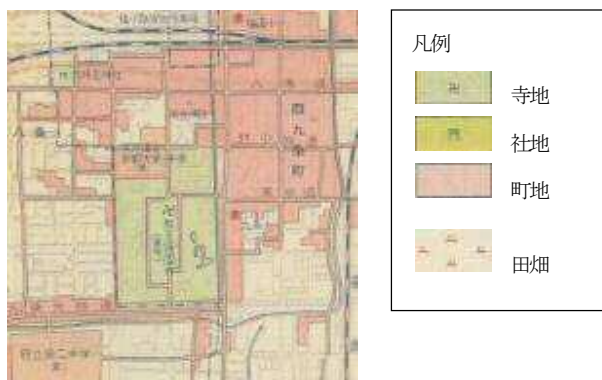


図4-14 大正4年(1915)の東寺地区周辺
 (『京都の歴史8 古都の近代』)

イ 国指定文化財の分布

当該地区内で建造物14件が重要文化財に指定されている。また、記念物1件が国指定記念物に指定されている。

国指定文化財の京都市、地区内指定件数

区 分	市内の指定件数	地区内の件数
重要文化財(建造物)	209件	14件
記念物	95件	1件

当地区内の主な国指定文化財については、以下のとおりである。

(7) 教王護国寺(東寺)

平安遷都と同時に造営され、現在まで主要伽藍は不動のままで、京都のシンボルである国宝の教王護国寺五重塔を有する寺院として、世界遺産「古都京都の文化財」の構成遺産として登録されている。

ウ 景観法、市条例関連の指定物件等

京都市市街地景観整備条例に基づく界わい景観整備地区を1地区(本願寺・東寺地区(東寺地区))指定している。

景観法、市条例関連の京都市、地区内指定件数

区 分	市内の指定件数	地区内の件数
界わい景観整備地区	8地区	1地区

エ 主な伝統的祭事の一覧

月	日	年中行事<場所>	内容
1月	元旦～	初詣	
	1～3日	三弘法詣 ＜東寺、仁和寺、神光院＞	弘法大師と最もゆかりの深い東寺、仁和寺、神光院の3カ所を巡拝する風習
8月	15日	萬燈会(盆踊り) ＜東寺＞	
12月	21日	終い弘法 ＜東寺＞	弘法大師の命日にあたる21日毎月行われる縁日のうち、12月は終い弘法、1月は初弘法と呼ばれ、正月準備をする大勢の参拝客でにぎわう。
毎月	21日	弘法さん ＜東寺＞	